

とある
村の外れに
小さな
魔が
住んで
いました

少女は迫害され
辺鄙なこの村に逃げ延びてきました

何も悪い事などしていないのに人々に忌み嫌われ
少女は深く傷付いてはいましたがそれでも少女は
困っている人は放って置けない優しい心の持ち主でした

村人は最初
余所者の少女を警戒していましたが
森で怪我をして困っている村人を
少女が助けた事から
次第に打ち解けていきました

薬草の知識が豊富な少女の作る薬に
村人たちは何度も助けられました



物静かで礼儀正しい少女に
村人たちは自然と好感を
抱くようになりましたが

どこか……陰りを帯びた
少女の様子に……

村人たちは詮索しないように
ほどほどの距離を保って
関わるようにしました

少女が薬を提供すると
村人たちは農作物を分けてくれたり
力仕事を担ってくれたりしました

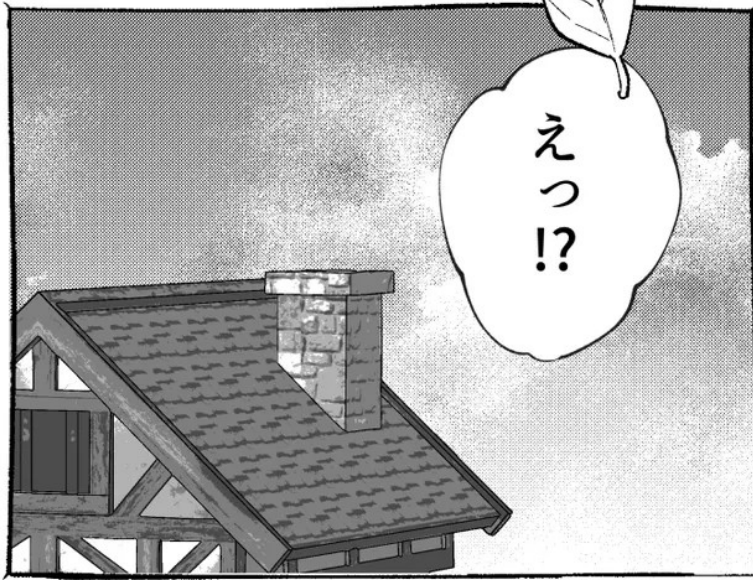
村人たちの
踏み込まない優しさ
温かい気遣いに

氷が解けるかのように
次第に少女に
笑顔が戻っていきました

誰に害される事もない
穏やかで慎ましい暮らし……
ずっと心から
望んでいたものです

少女は幸せでした
しかし……





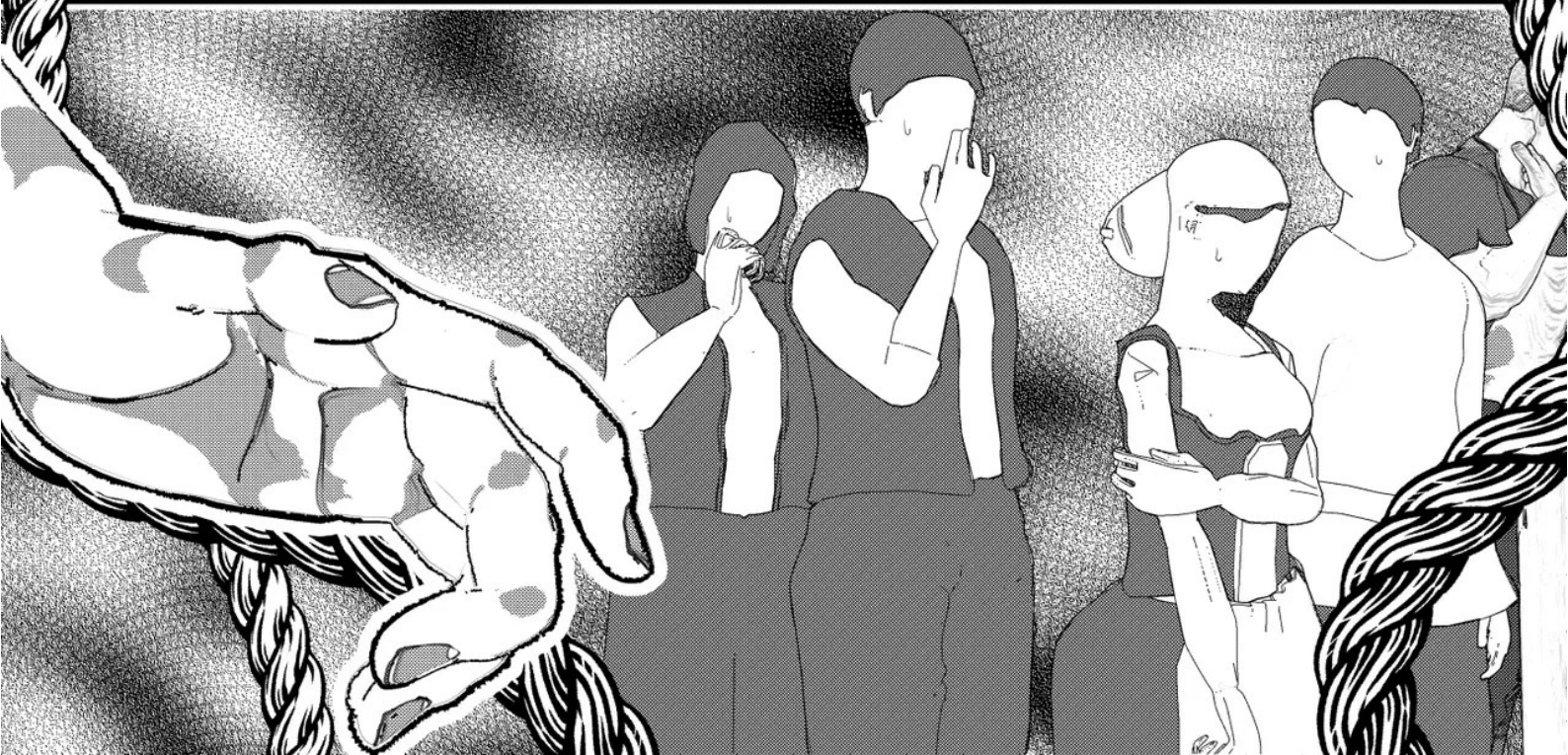
騎士達が大勢
馬に乗って
やってきました

魔女狩りです

騎士達は
村人を全員
広場に集めました

小さな村です
あつという間に
周りを囲まれて
誰も逃げられませ
ん
勿論少女も：

騎士は尋ねました この村に魔女はいるのかと





村人たちは少女を差し出しました

……仕方ありません
所詮は余所者です

彼女を庇えば
代わりに何の罪もない
村娘が連行される
かもしれないし

あるいは村ごと
焼き払われてしまう
可能性すらあるのです

そう……だから
村人たちの行動はごく
普通の……
当たり前前の事で……

傷付く自分が
間違っているのだと
少女は思いました



お前が魔女か！

きゃ...



ほう...
中々可愛らしい
顔立ちじゃないか



その可愛い
ツラを利用して
どれだけ
善良な民を
墮落させて
きたんだ？

まあまだ
魔女と決まった
訳ではない

そうだったな
確か魔女は—



…っ

むだっ

ぐ…

むびっ

体の何処かに
魔女の印が
あるんだっただな？

むびっ



むにっ

むびっ



悪魔は契約の証として
魔女の身体に
印を残すという——
念入りに隅から隅まで
調査しないとなあ

むにっ

むにっ

むびっ

……ッないです
そんな……ッ

あ

んんん？

このしこりかア？

キョ

キョ

……ツあ







いああアツツ!?



離し、てっ

いや、あ、あ、アツ

引っ張らないでえっ

別にこっちは引っ張ってないぜ？ そっちがくねくね動いてるんだろ



んっくっ

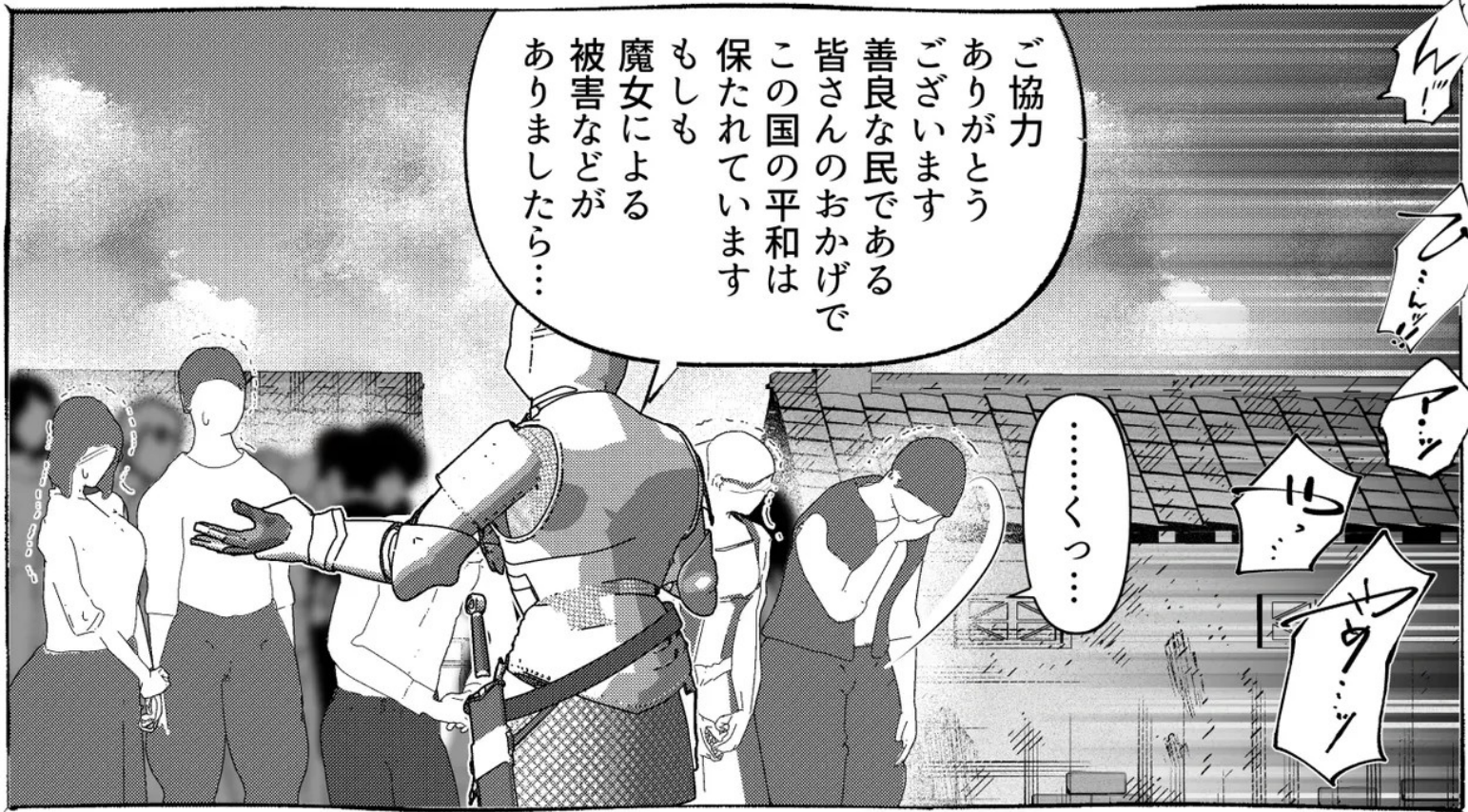
カク

カク

たゅ

うあ、アんツ

カク

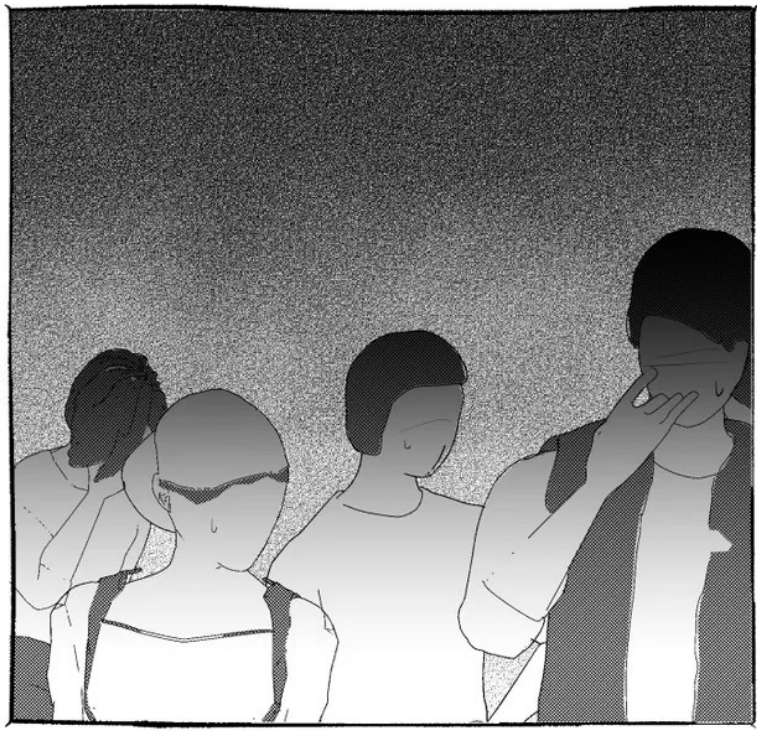


ご協力
ありがとうございます
ございます
善良な民である
皆さんのおかげで
この国の平和は
保たれています
もしも
魔女による
被害などが
ありましたら…

……くっ……

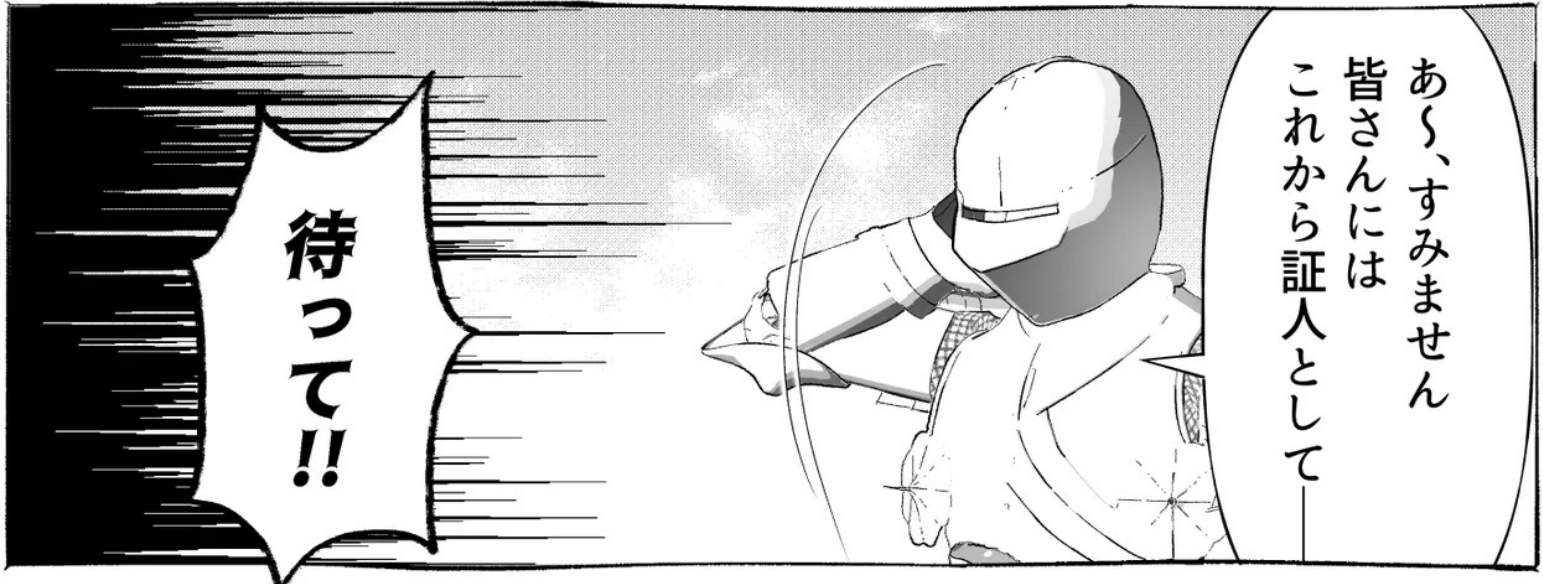
し…

や…



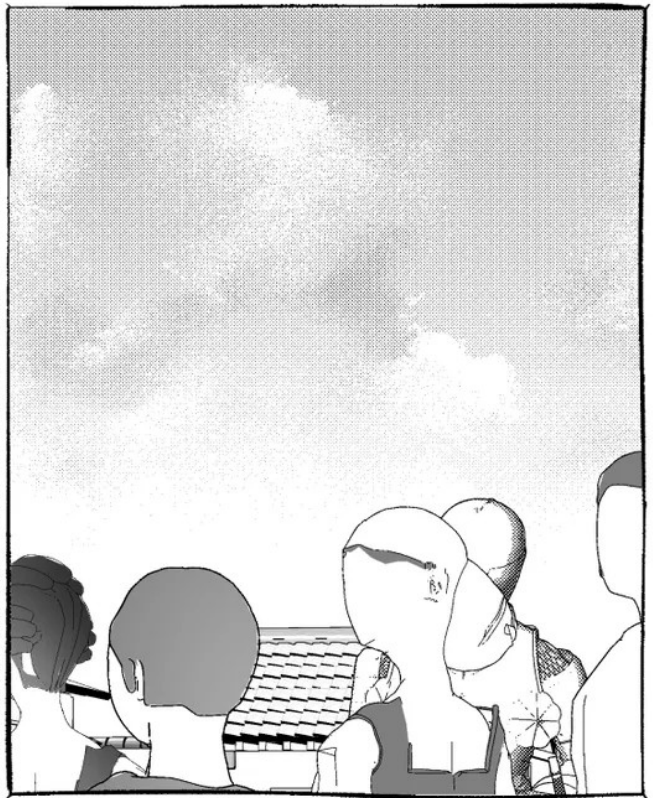
いいえ
大丈夫です…

あの…私どもは
もう戻っても
よろしいですかの？



待って!!

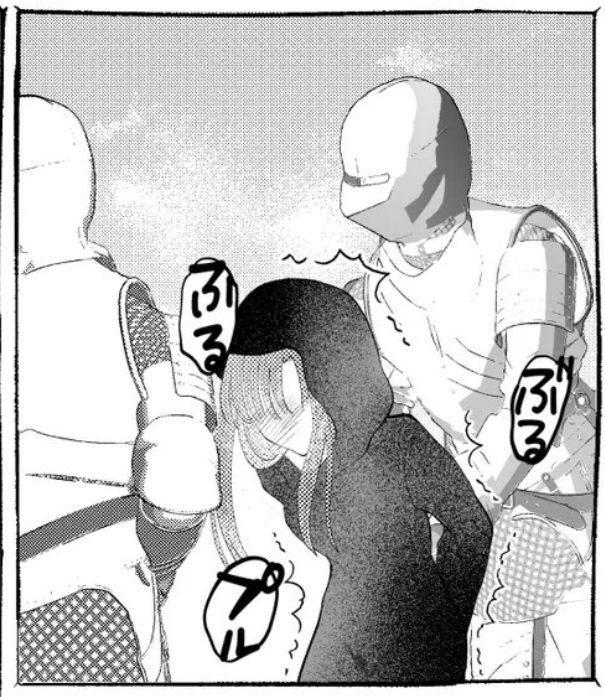
あゝ、すみません
皆さんには
これから証人として



お姉ちゃんは
魔女じゃないよ！

だって魔法使つてるとこ
見た事ないもん！

魔女って空を飛んだり
狼に変身したり
するんでしょ？





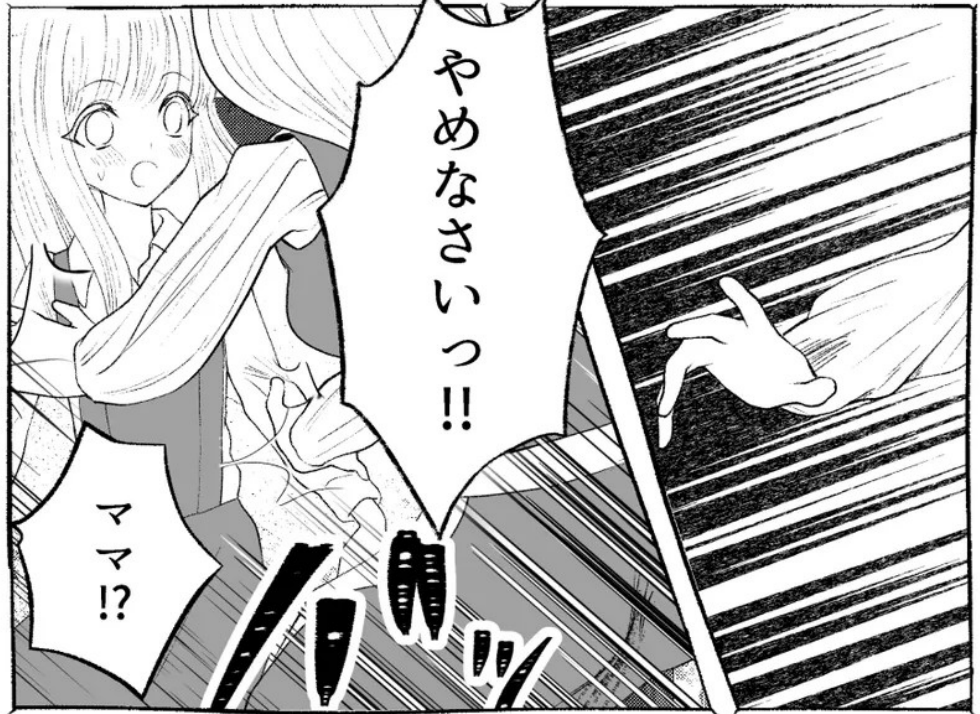
お姉ちゃんは
悪い事なんて
してないのに……

お姉ちゃんは
優しく、
薬草に詳しく、
わたしのママを
助けてくれて……



綺麗で、かっこよくて、
わたしずっと憧れていて
お姉ちゃんみたいにな
りたいって——

ほろ……





大丈夫ですよ
我々は
民に対して
無暗に危害を
与える事は
ありませんから

びっ
ぽ



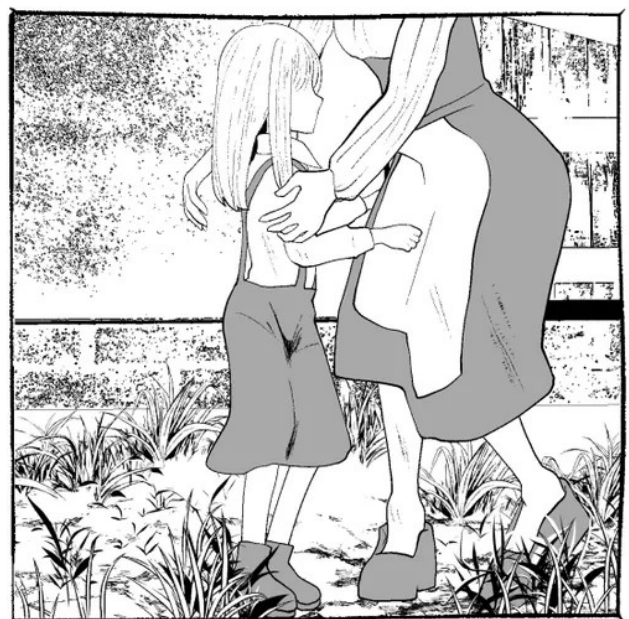
ああ奥さん
どうかお立ちに
なつてください



ご安心ください



確かに——
今よりも昔の時代は
イボや魚の目、
アザやホクロなど
誰にでもあるような
身体的特徴によって
魔女であると疑われた



どれだけ無実の人々が
火刑台に送られた事だろう…

無実の人も拷問によって
無理やり自白させられていた
魔女と疑われても
仲間の名前を教えれば
減刑してやると嘯かれ…



お嬢ちゃんも

政治的な陰謀、黒死病の流行
異端派勢力との戦いでは
度重なる敗北……



社会不安が高まり人々は
悪魔によって集中攻撃を
受けていると強迫観念を
持つようになった……

そのパニックの
捌け回が魔女狩りだ

しかし、それは
もう昔の話だ

無辜の民を魔女として
断罪するなど
あつてはならない



だから、魔女じゃない者を
魔女扱いする事はしないよ
安心してくれ

で、でもっ！
あれでしょ？

魔女かどうかを
確かめる為に

ごっ、ごっとうもんとか
するんでしょ!?



はは、そんな事は
しないよ

拷問や脅迫的手法による尋問はね
実は非効率で無益で信憑性もないんだ



拷問を受けた人間は
目先の苦痛から逃れる為に
嘘もデタラメも言う

幻覚や妄想の症状が出る者もいる

そんな証言なんて
何の証拠にもならないだろう？

魔女であるか否か――

現代ではもう
前時代的な迷信などではない
きちんとした
明確な基準があるんだ





そんな、
そんなの……わたし……



で、でも、
魔女だと分かったら
お姉ちゃんの事……
火炙りにするんでしょ……？



……ッ



ッ



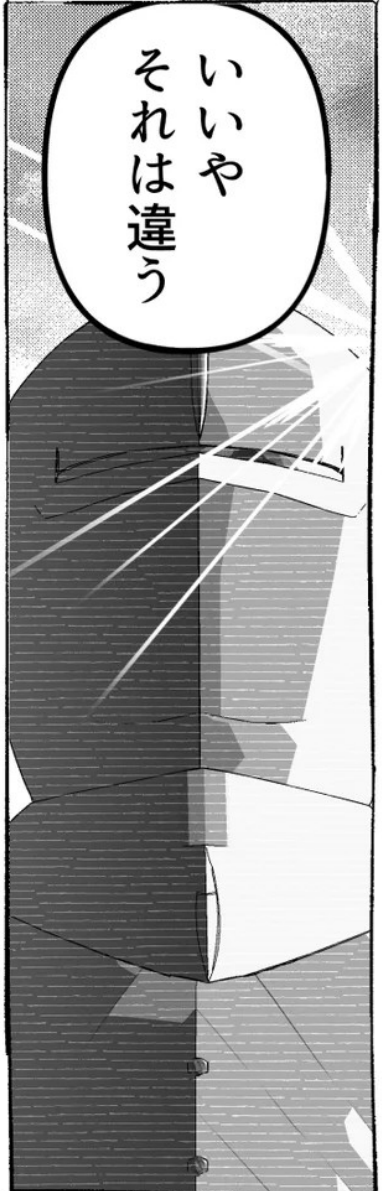
教皇様は慈悲の深い
お方であられる

無暗な殺生や非道な行いは
禁じられている

魔女は国や国民の為に
職務として公的な奉仕活動
をする事になるだろう



!?



いや
それは違う



魔女の力を人々の為に役立てること
他者の幸福を願う他者に尽くし仕え
心を捧げること

そうした行い、姿勢により
魔女の穢れた魂は
浄化され救済される

教皇様は魔女にさえも
和解の道を示しているのだ



あ……
ああ……



おねえちゃんは大丈夫なんだよね？

魔女だとしても
殺されないんだよね？

痛い事もしないんだよね？



よかったあ……！



わあっ

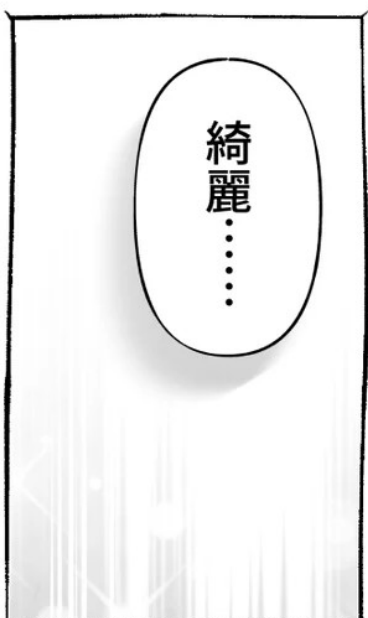
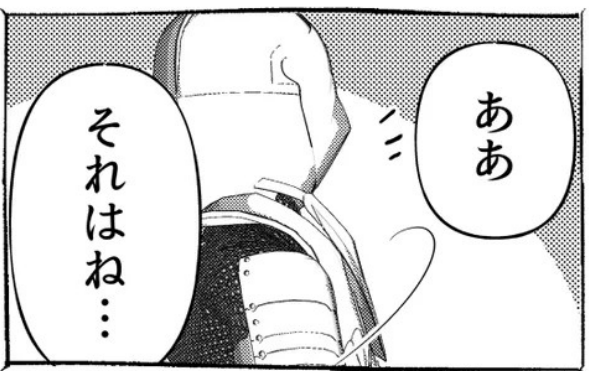
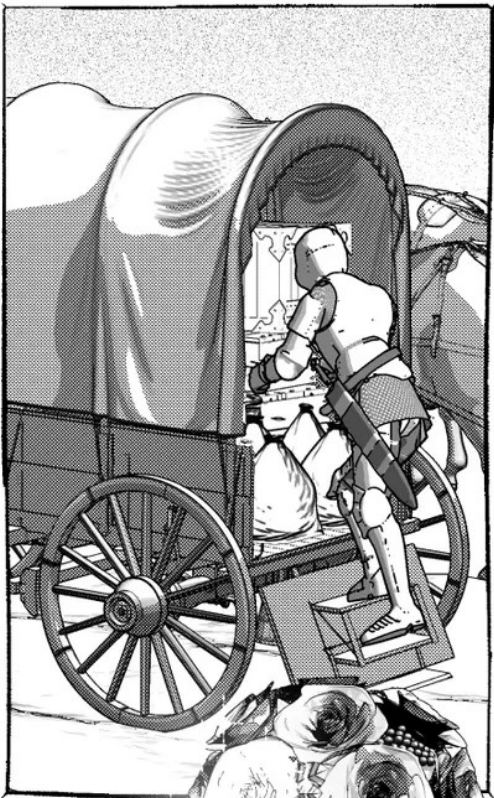
ほっ

ざわ
ざわ



ああ
痛い事は
しないさ

約束しよう

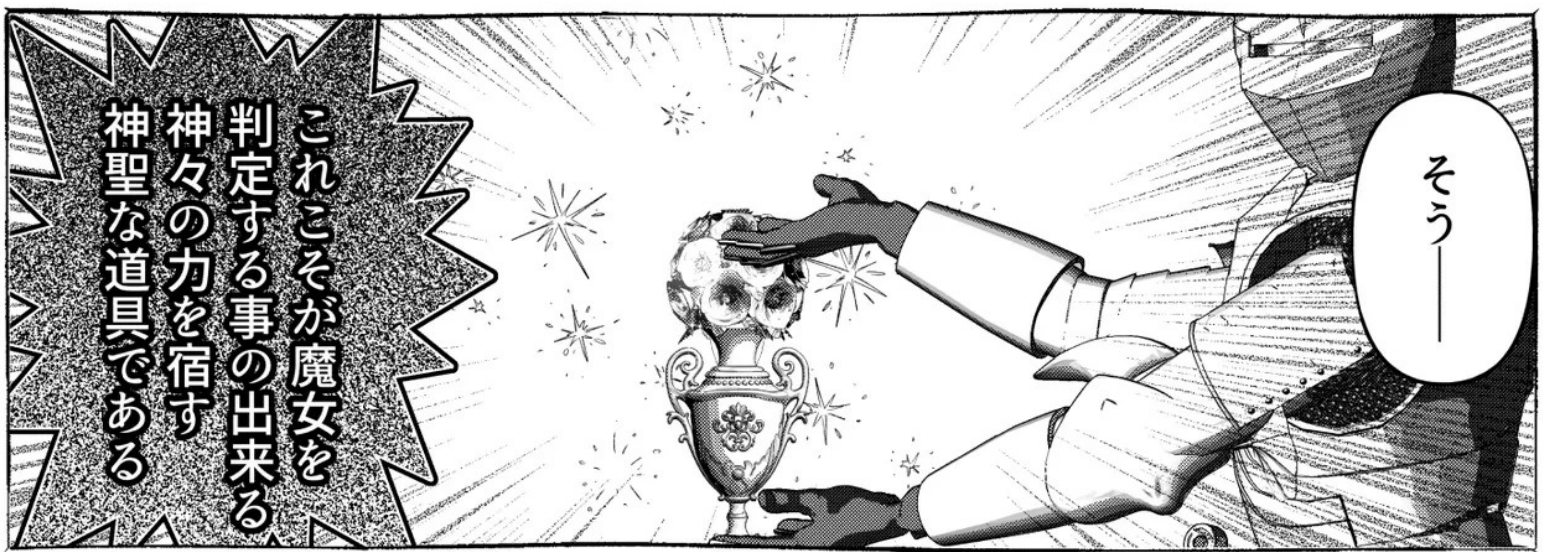




お花……
ひとつだけ
キラキラしてる？



あれ？



そう——

これこそが魔女を
判定する事の出来る
神々の力を宿す
神聖な道具である



??

え、えっと、つまり
これが光ってるって事は
おねえちゃんは魔女って事？

その通り
ただ一個だけなら
誤差かもしれない

全部光らせる事ができるかどうか
これからそれを確かめるんだ



魔女には邪悪な力があるが
この神具はそれを浄化し
聖なる力として集め
留める事ができるのでだ
そうする事で魔女は
人々の役に立ち
功德となり魔女の心が
清められる



即ち魔女は
先程の性感帯への
刺激によって快楽を
感じていたのである



魔女は
性的興奮の際に
体内で魔力が生産される
そして……

性的緊張からの解放……
深い精神的満足……

オーガズムの際に
強く放出される！



ざわっ



……え、



……へ、

えっ!?

なっ、なんっ

いや、

そ……ッ

カ



神具——【電マ】

魔女の性感帯を
的確に刺激し絶頂に
導く事が出来る



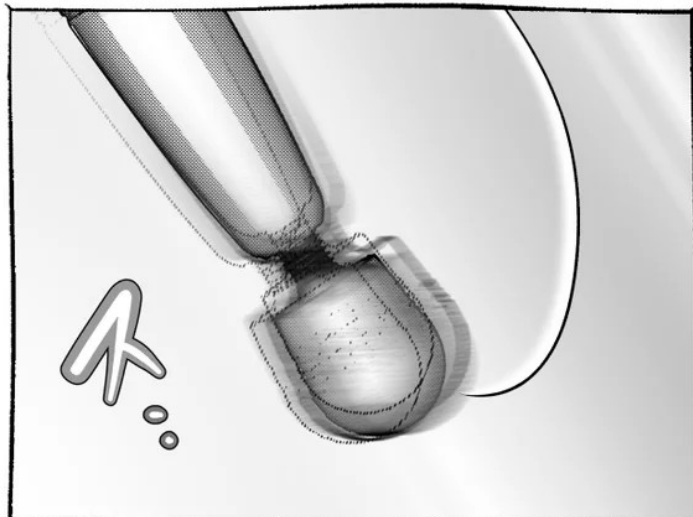
今花の輝きはかすかなものであり
また胸を揉まれただけで性的快感を
得たとは確かに懐疑的である為

これよりこちらの神具を用いて
花の様子を観察する



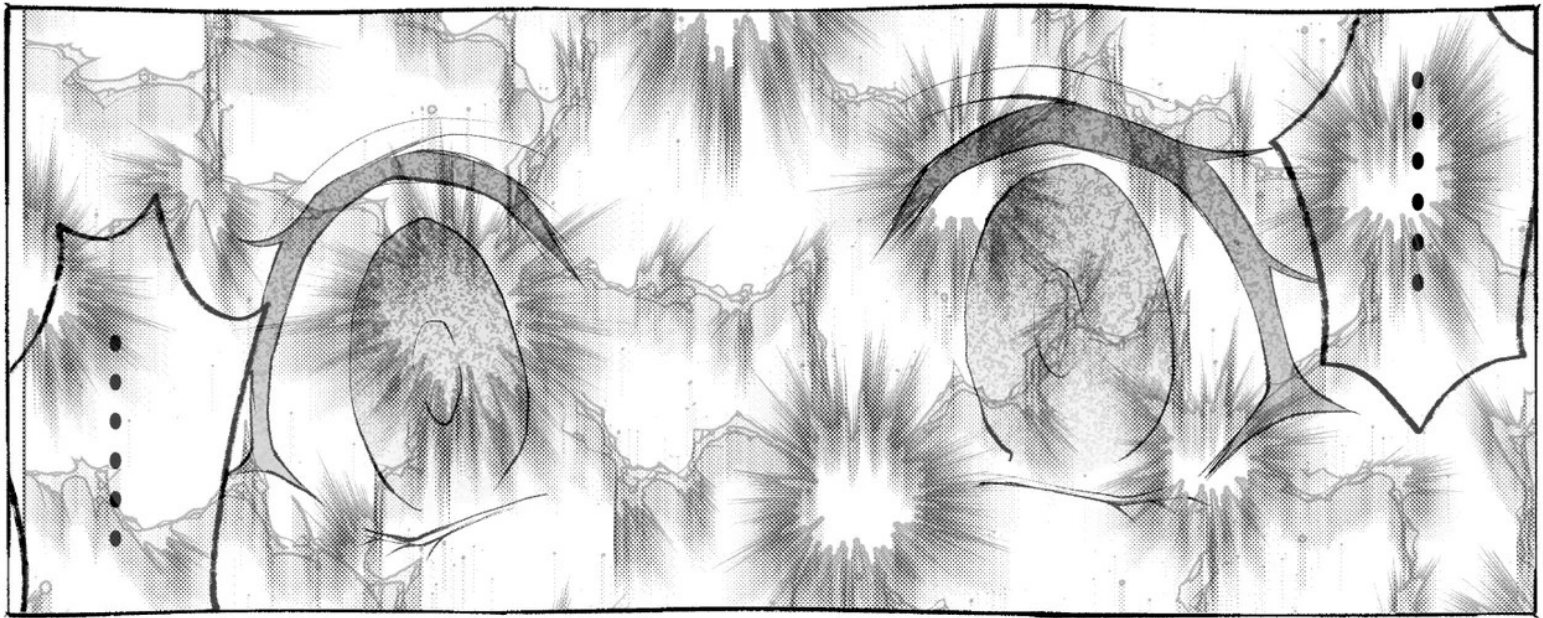
なんて神秘的……

おお……
あのような
凄まじい動きは
見た事がない……
まさにこの世のもの
ではない……



なっ、そ……っ、
そんなもので私は
き、気持ちよくなったり
なんかしません……!!





あああッ



勝手に…
声が…
身体が…

あーん
んんん
んんん

…ツギ、
……くっ



な…
なに…これ…

がが

あゝ

がが

あゝ



抑えられない

ドクン

くううッ!!



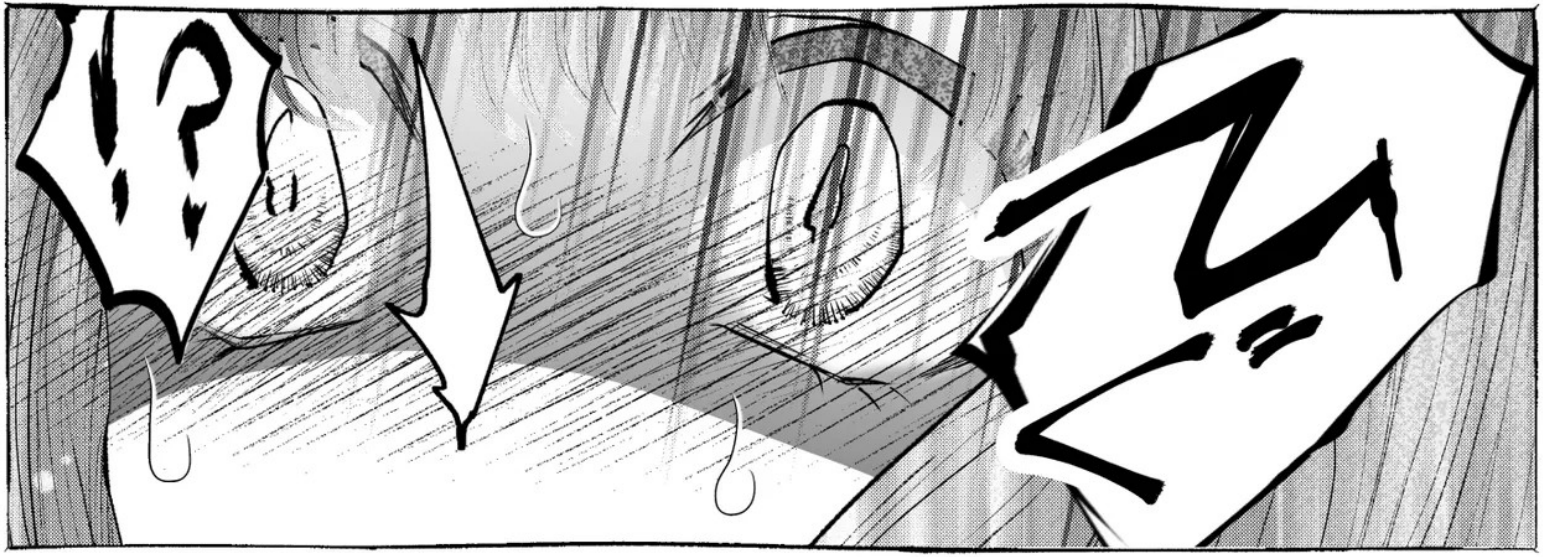
下腹部から…痺れが…
全身に広がって…

ギョー

ギョー

ギョー







ああっあ
ひいひいひいイツ

今、イツてツツ
イツてるからああああ!!!

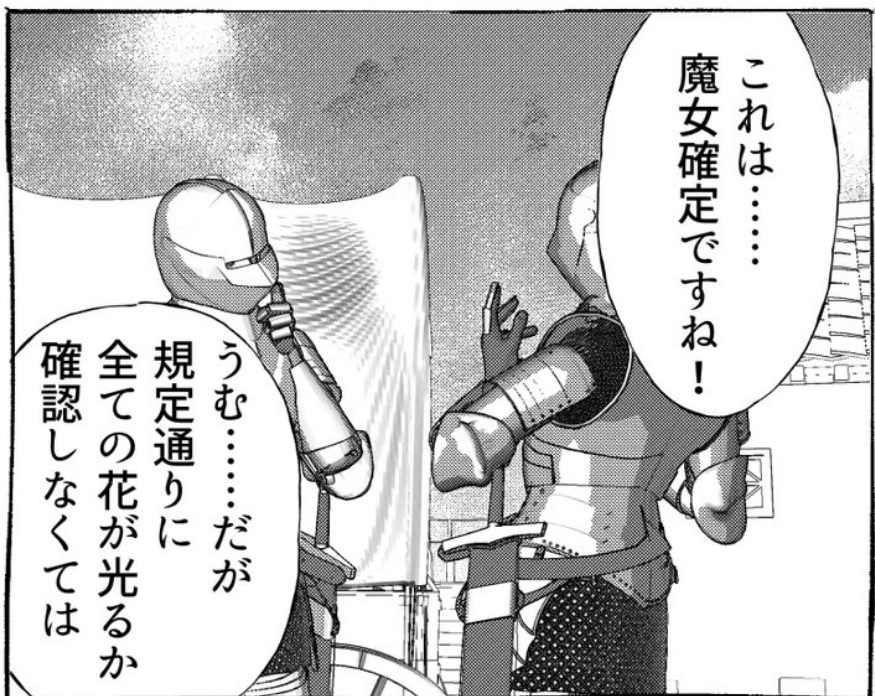


いやアアっ!!
止めてツとめてえツツ!!!



いやあああ!!
またイツちや







大勢の見知らぬ騎士達の前で：
見知った村人たちの前で：

足を開いた状態で
固定されます

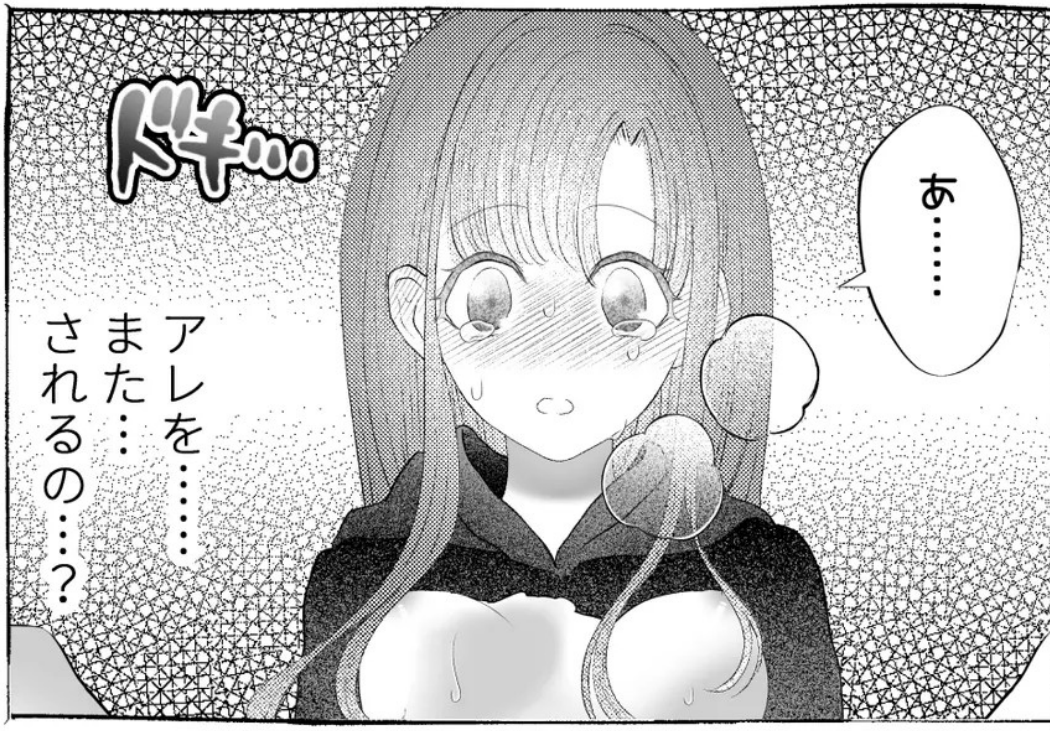
衣服を檻樓切れにされ：
ほぼ丸裸のかっこうで大股開かされて：
一番恥ずかしい場所を曝け出すという

それは年頃の娘にとってあまりに
むごたらしい辱めでした

今まで隠されていた部分に
スウーツと外気が触れて
自分がどんなにかっこうなのか
否応なしに実感させられます

ぬらぬらと愛液を垂らしている性器も
ヒクついている肛門も
ビンビンになっている乳首も
しっかりと見えている事でしょう

もちろん……
これで終わりでは
ありません



ドクン...

あ……

アレを……
また……
されるの……？



ドクン
ドクン
ドクン

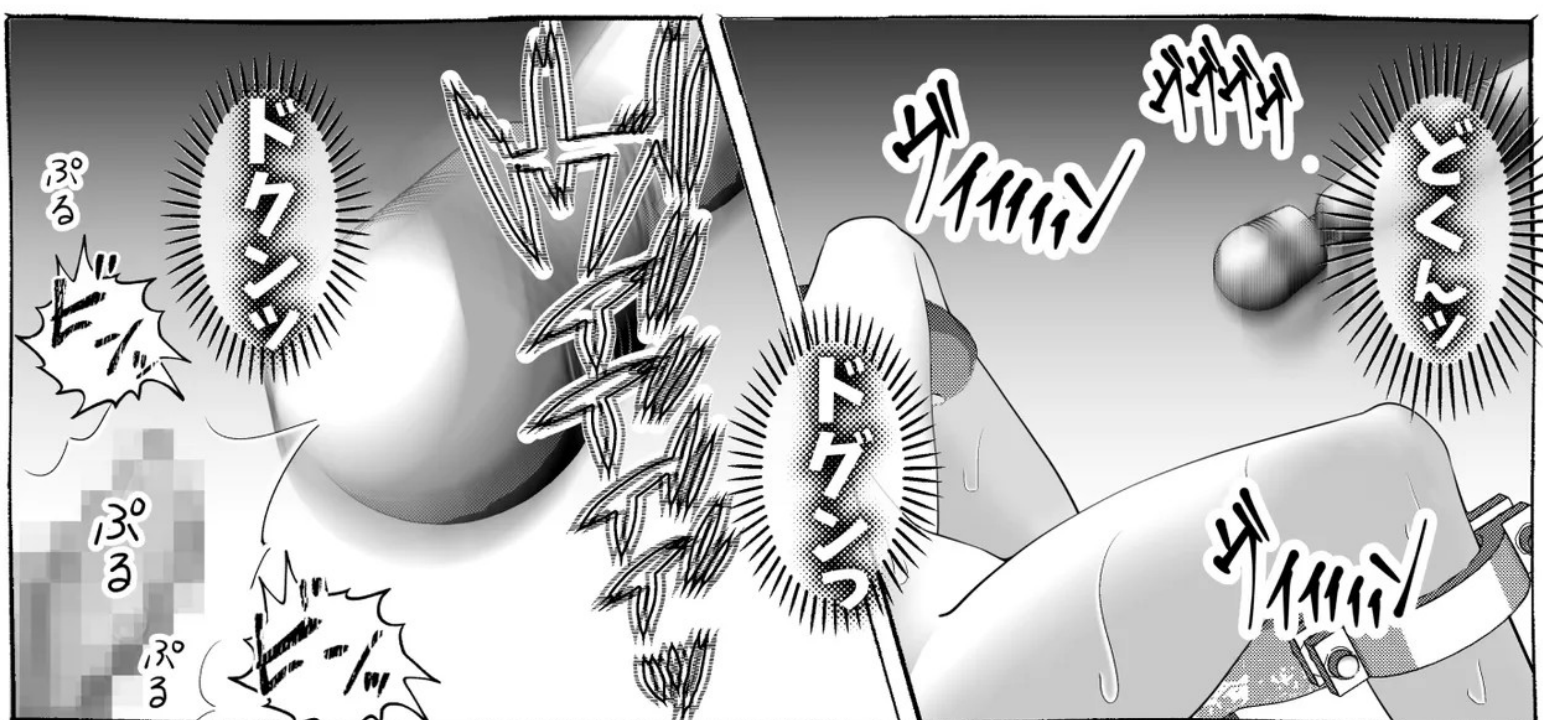


さつき……
布越しに
当てられただけでも……
すごかった……のに……
まさか今度は……直に……？

ドクン

ドクン

そんな……
直接またあんな事されたら
一体……どれほどの……？



ドクン

ドクン

ドクン

ズル

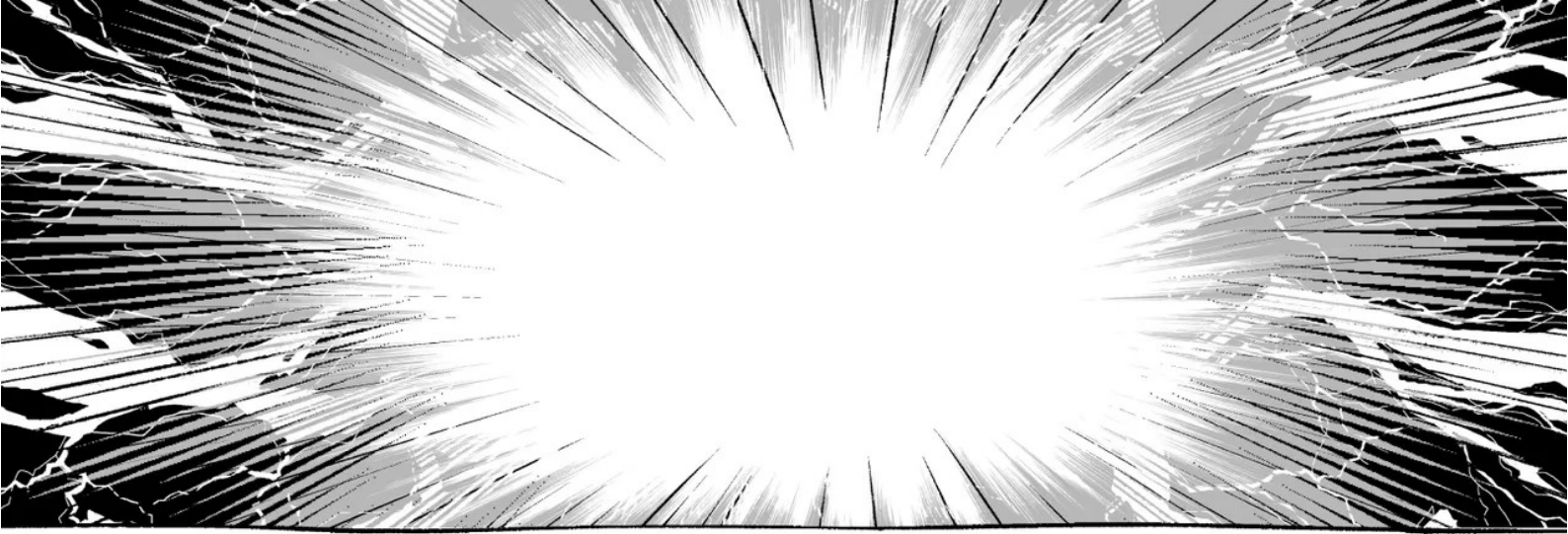
ズル

ズル

ズル

ズル

ズル







剥き出しの
陰核への刺激は
凄まじい
ものでした

抵抗しようのない無防備な快楽神経に
叩き付けられるような快楽が強制的に与えられ

口からは恥ずかしい
声が止まらず
身体は勝手に痙攣し

最早恥も外聞もなく
懇願し
許しを乞い
のたうち回りながら
泣き叫ぶ事しか
できません

許して下さい

助けを
下さい

モウヤメッおぬが...

泣



しかし彼女の矜持が
打ち碎かれるのは寧ろこの後でした



人として……女性として……
普通だったらもう
立ち直れないであろう痴態を
衆目に晒されて……少女の
心はズタボロになりました

【電池】が切れたとの事で
騎士達は新たな神具を用意し……



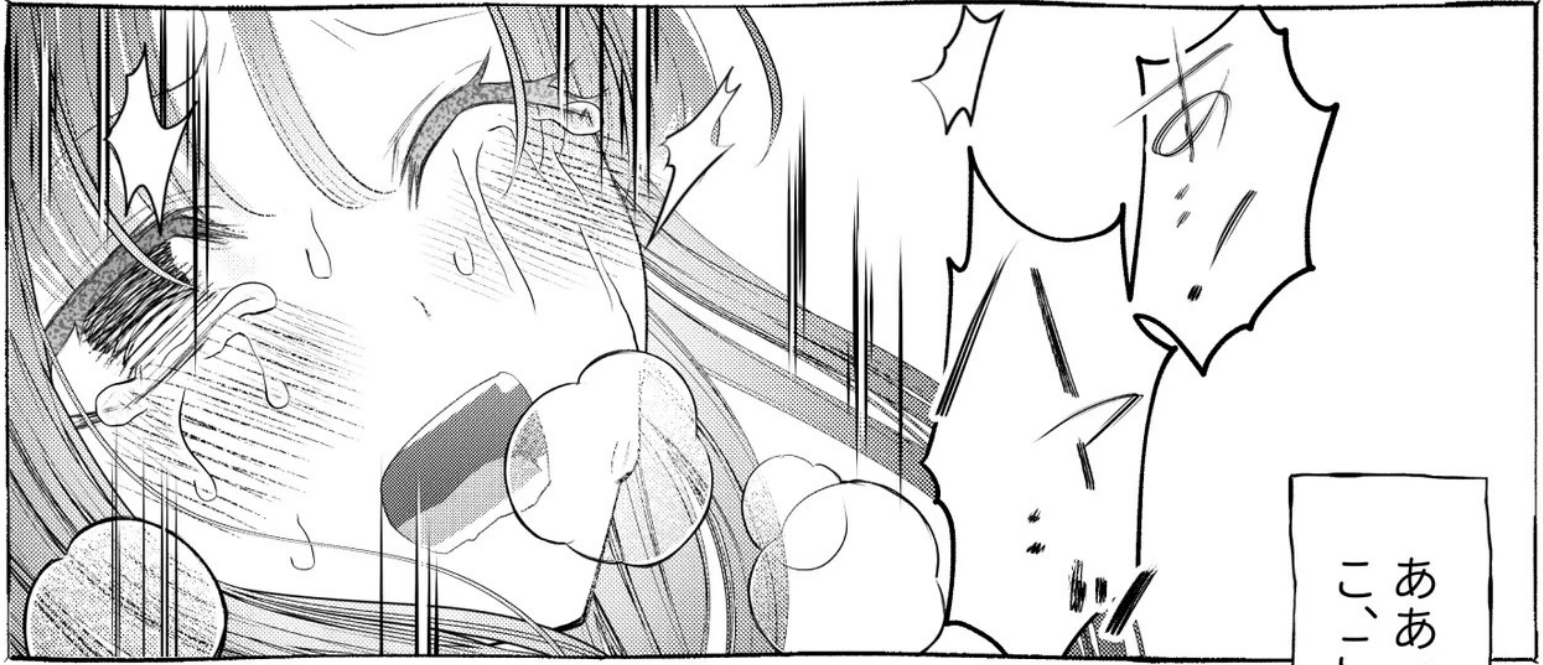
アタッチメント式だという
それを拘束台に設置します



そして騎士達が作業している間
半ば放心状態の魔女には暫しの
休憩が訪れ……







ああっ!?!
こ、これ…



根元を…!?

ビビッ

両側から、
挟んで—



これくらい…
なら…



でも…
さっきよりは
力が…弱い…?









火照っていた頭が
ザーツと冷めていき

がく
がく

でもすぐに顔から
火が出そうな心地に
なりました

先程までの奔流に
のまれるような
激しさとは違い

弱く優しい振動は
心地よく、
快感をはつきりと
魔女に認識させました

無理矢理、
身体の敏感な部分を
刺激されたのだから

身体が勝手に反応して
しまっても仕方ないと

そんな言い訳する事も
できないくらいに

心の底から快感を感じて
そしてうっとり
と
快楽に身を任せてしまった
自分自身を

彼女は自覚しました

羞恥や罪悪感…
混乱、戸惑い、
自己嫌悪……

様々な精神的シヨツクが
魔女を襲います

しかし魔女の
心情など
当然考慮される
事はなく……



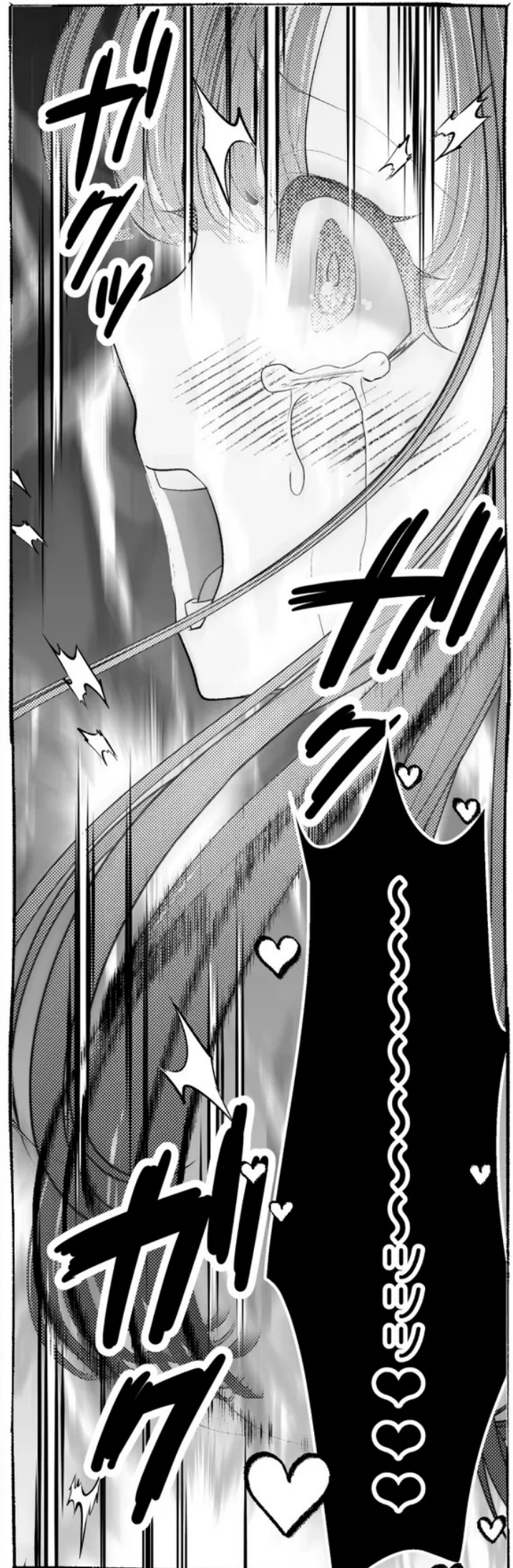
花が全て光り——
魔女は連行される事と
なりました

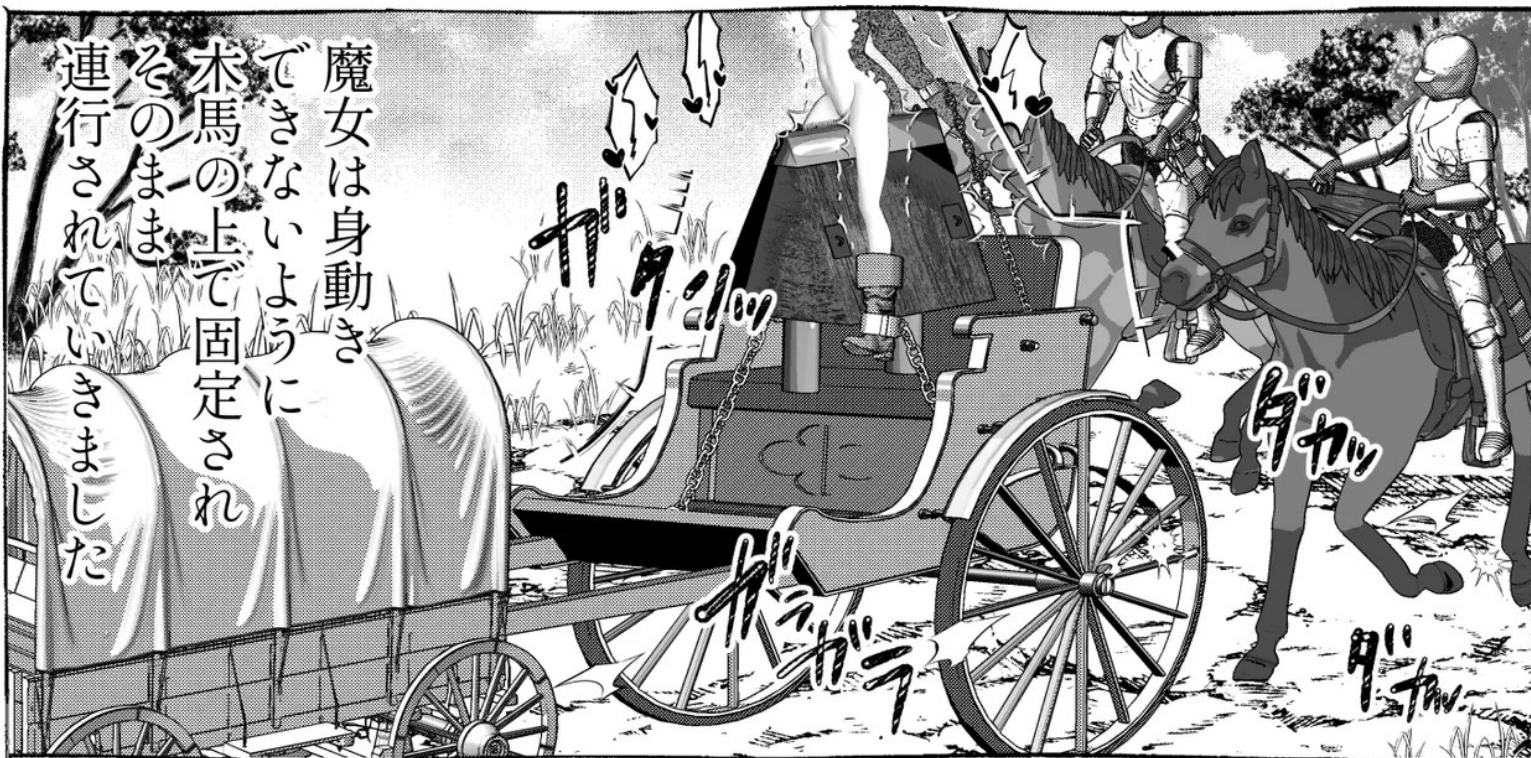
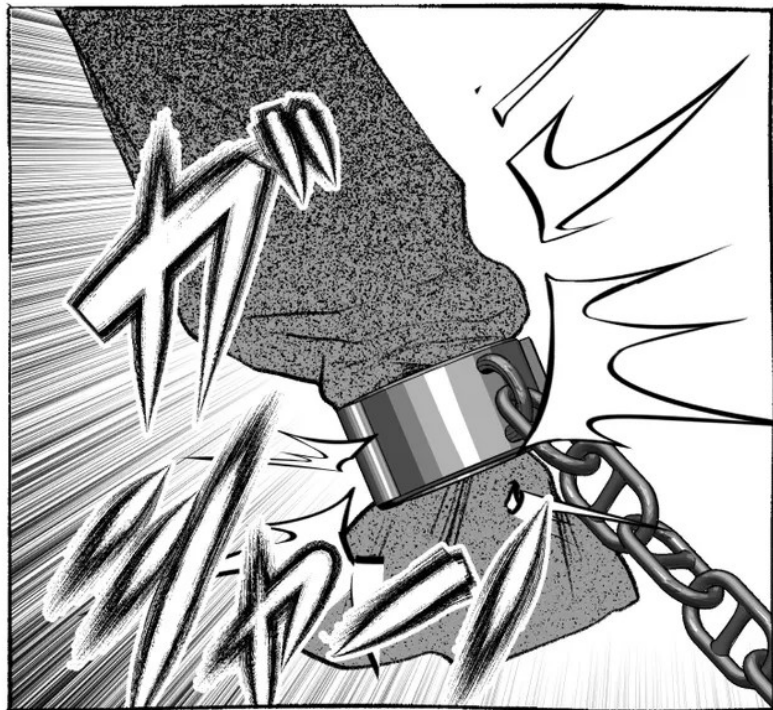
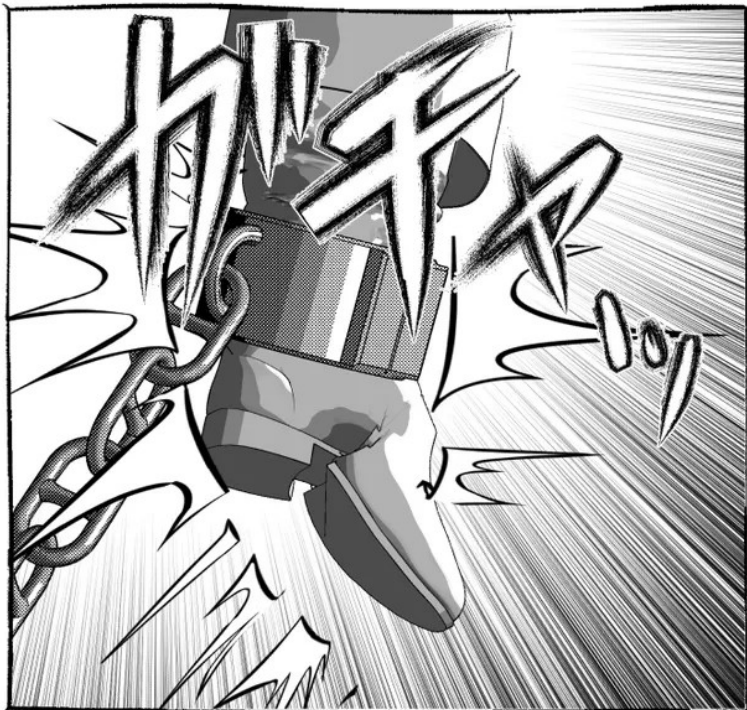


護送用の
特別な神具【三角木馬】に
無理やり跨ぐようにされ

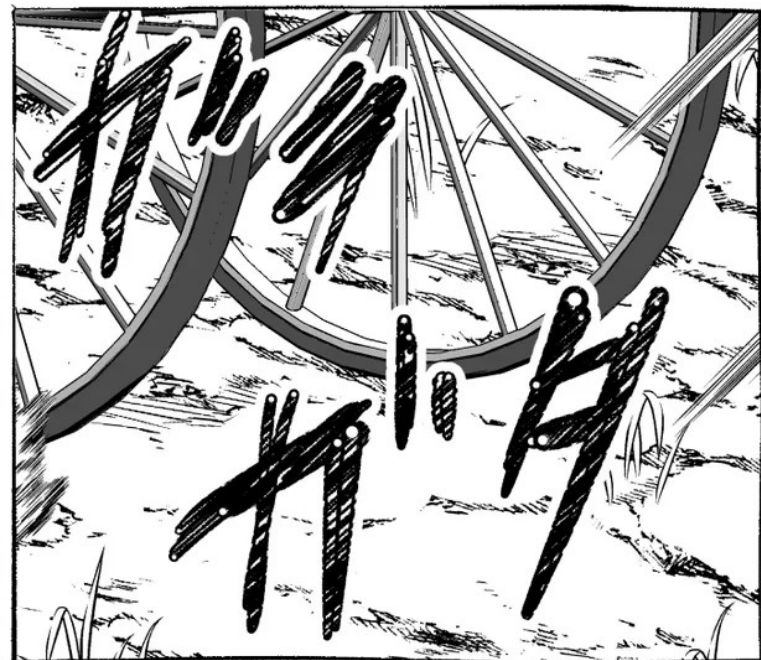








魔女は身動き
できないように
木馬の上で固定され
そのままと
連行されていきまじた



村人、町人、
旅人や商隊

寂れた農村

活気に満ちた街

魔女が身体をくねらせ
潮を撒き散らしながら
何度も絶頂する姿が
領民達に晒されていきます

そして王都





ガクン

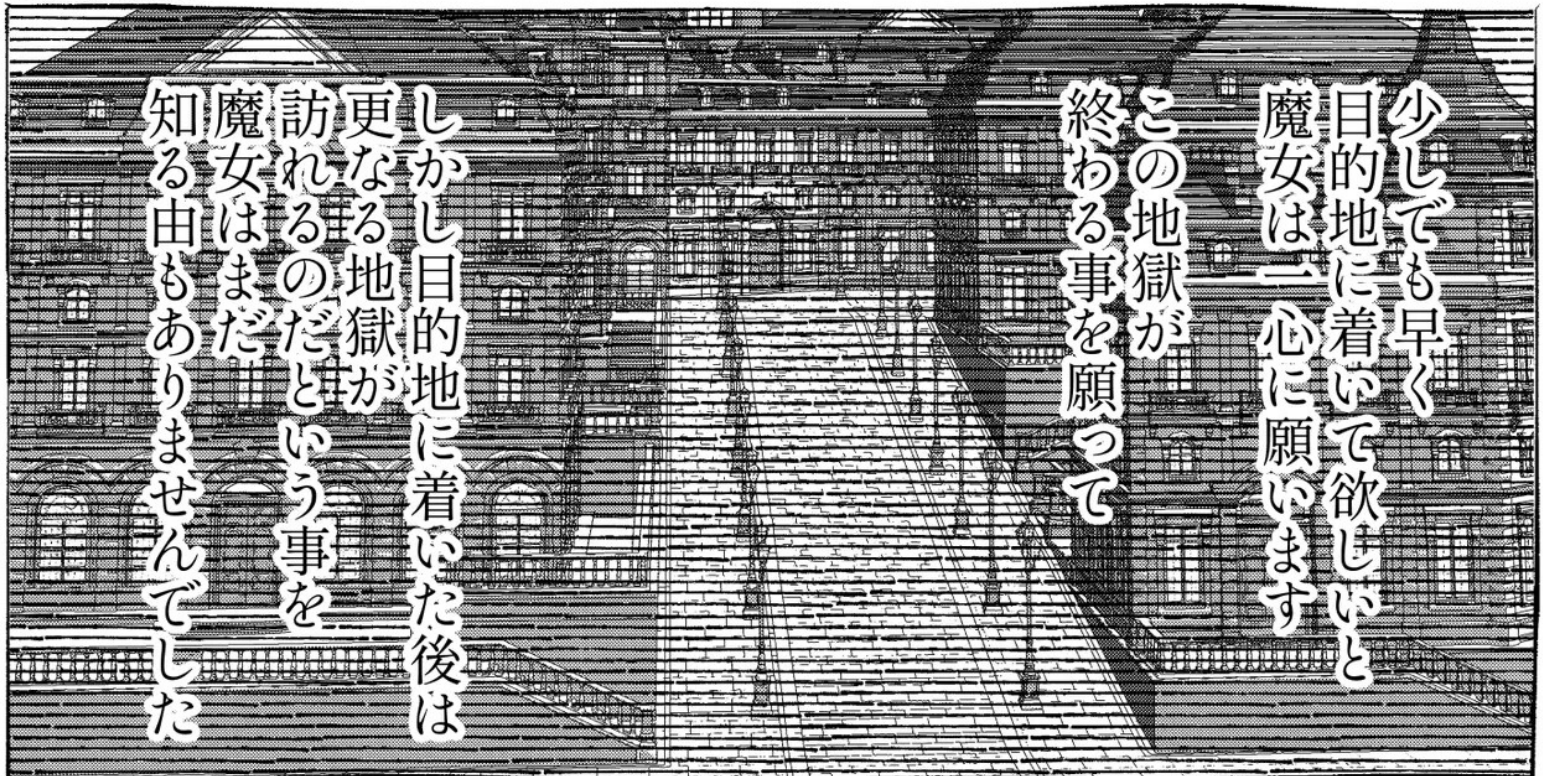
ガクン

早く――



ガクン

ススススス
ツツツツツ
!!!!



少しでも早く
目的地に着いて欲しいと
魔女は一心に願います
この地獄が
終わる事を願って

しかし目的地に着いた後は
更なる地獄が
訪れるのだという事を
魔女はまだ
知る由もありませんでした